

〈解答〉

- ① 1 About two thousand years ago.  
2 エ  
3 ア  
4 〔例〕紙で作られたコップやお皿を使いすぎること。  
5 A 〔例〕I have never thought about paper.  
B 〔例〕I'll talk about paper with my friends because I learned paper was important.

配点 各2点 12点満点

〈解説〉

① 〈長文和訳〉

私はしばしば本を①「読むこと」を楽しみます。本はたくさんの紙から作られています。紙について考えたことはありますか？ みなさんの多くが、「いいえ、ありません」と言うでしょう。あなたは毎年、どのくらい多くの紙を使いますか？ みなさんがこの質問に答えることができるとは思いません。現在、アメリカやイギリス、日本のような②先進国は、他の国よりたくさんの紙を使用しています。

中国では、約2,000年前に、最初の紙が作られましたが、それは木から作られたものではありませんでした。それは植物から作られたものでした。18世紀には、ひとりのドイツ人が蜂の巣から紙を作り、19世紀には別のドイツ人が、木から紙を作りました。そのあとで多くの国が、木から紙を③「作り」始めました。

現在では、中国とアメリカがたくさんの紙を作っていますが、多くの国が紙を大量に作る機械を所有しているので、たくさんの紙を速く作ることができます。

私たちは現在、たくさんの紙を容易に入手することができます。多くのものが紙からできています。お店には、たくさんの紙コップや紙のお皿があります。それらはとても便利ですが、それらの使いすぎは環境によくないと思います。私たちは、紙の④「使い」すぎを止めて、環境について考えるべきです。

- 1 問いの英文は、「中国で、初めて紙が作られたのはいつですか？」という意味。  
第2段落を参照。約2,000年前に作られたと書かれている。よって、

→ About two thousand years ago. (5語)

と答える。

- 2 ① 直後に books があるので, reading が正しい。  
③ 直後に paper from trees があるので, making が正しい。  
④ 直後に too much paper があるので, using が正しい。

enjoy, start, stop は, いずれも後ろに動名詞を置く動詞である。

- 3 developed 「発展した」 → developed countries 「先進国」

その後の内容や, 直後の「アメリカやイギリス, 日本のような」という語句もヒントになる。

- 4 最終段落の内容を参照。「紙で作られたコップやお皿を使いすぎること」が例として挙げられている。答えるときは, 条件に注意して答える。

- 5 A 「紙について一度も考えたことがなかった。」

①否定文: ~したことがなかった

②時制: 現在完了形

③動詞: 考えた

※修飾語句: 紙について

主語は書かれていないが, 優子が自分の考えを述べる文を書くので, 主語は I である。

「~したことがある [ない]」という経験の有無は, 現在完了を使うとよい。〈have [has] + 過去分詞〉で「~したことがある」という意味である。ここに, 「(一度も) ~したことがない」という意味の never を, have の直後に入れる。過去分詞は, think の過去分詞形である thought を用いる。

まとめると,

→ I have never thought about paper.

となる。

- B 「紙が大切だということを学んだので, 紙について友だちと話し合うつもりである。」

この文は, 前半部分(「紙が大切だということを学んだ」), 後半部分(「紙について友だちと話し合うつもり」)に分割して解説する。

●前半部分(「紙が大切だということを学んだ」)

①肯定文: ~しました

②時制: 過去形

③動詞：学んだ

主語は I である。動詞には learned などを用いる。「～ということを」なので、接続詞の that を使って、〈I learned that + 主語 + 動詞 ~.〉という文を作る。〈主語 + 動詞〉の部分には、「紙が大切だ」という内容が入る。よって前半部分は、

→ I learned that paper was important.

という文になる。

●後半部分（「紙について友だちと話し合うつもり」）

①肯定文：～するつもり

②時制：未来形

③動詞：話し合う

※修飾部分：紙について、友だちと

主語は I である。（助）動詞には will talk を用いて、〈I'll talk ~〉という文になると分かる。

修飾部分については、「紙について」なので、about paper を続け、さらにそのあとに with my friends 「友だちと」を続ければよい。よって後半部分は、

→ I'll talk about paper with my friends.

という文ができる。

最後に、前半部分と後半部分を、理由を表す接続詞の because を用いてつなげる。

まとめると、

→ I'll talk about paper with my friends because I learned paper was important.

となる。